



『教会はキリストの体、一人一人はその部分』

コリントの信徒への第一の手紙 12 章 27 節

日米合同教会は、特にニューヨーク市近郊に住む日本人並びに日本に関心を寄せる人々に、礼拝、交わり、学び、伝道・宣教の業を通してキリストの福音をのべ伝え、キリスト者として共に信仰を深めていくことを目的とする信仰共同体です。

◇牧師からのメッセージ

感謝祭の意味を考える

今年も感謝祭が間近に迫ってきました。現代のアメリカではおおむね感謝祭は家族団らんの日、おいしい食事を楽しむ時として大切にされています。しかし、感謝祭にはより深い意味が込められています。その意味を理解するために、第一回目の感謝祭を振り返ってみましょう。◆ピューリタンの一団がアメリカに彼らの共同体を形成するために現在のボスト



ンの近くに移住したのは1620年のことでした。この共同体の名前がプリマスです。ピューリタンの人々は、原住民の人々と良い関係を築き、友人として交わったので、

彼らからとうもろこし、大麦、豆等の栽培方法を教えてもらい、海や川で魚の取り方まで伝授してもらったことができたのです。◆間もなく厳しい冬がやってきました。凍てついた雪、吹きすさぶ風、見る限り雪に覆われた荒野はピューリタンがかつて経験したことのないもので、最初の冬に彼らの半分が凍死か肺炎で亡くなったということです。健康な者は7、8人しかおらず、彼らが弱り切った仲間のために木を切り、火を起し、料理をし、洗濯をしたのです。◆やっと春が訪れ、夏がやってきました。彼らの一生懸命な努力が実り、1621年の秋には、素晴らしい収穫を得ることができました。リーダーの一人だった William Winslow は、豆の栽培はうまくいかなかったが、とうもろこしと大麦は大成功で、野生の七面鳥を料理することもできるようになった、とその日記にしたためています。◆1621年の11月のある日、ピューリタンは原住民の人々を収穫感謝の食卓に招きました。これが最初の感謝祭です。彼らが感謝したのは穀物の収穫だけではありません。あの地獄のような冬に神が苦しみを共にしてくださったことを感謝し、栽培方法等を教えてくれた親切な友人達の存在を感謝したのです。つまりピューリタンは、第一回目の感謝祭において、新大陸で生きることを可能にし給うた神に敬虔な感謝の祈りを

捧げたのです。彼らの感謝の対象は慈しみ深い神そのものでした。◆感謝祭が家族団らんの時であるのは勿論です。おいしい食事を楽しむ時であるのも勿論です。しかし感謝祭の意味はそれだけではありません。もっと大切な意味が込められているのです。神に感謝する敬虔な心、これこそ私たちが感謝祭で心に刻み付けるべきものであるに違いありません。

◇日曜礼拝説教の要約◇

■ 9月19日「信仰の父アブラハム(1)」創世記12章1

一4節 クリスマスを自認する人々の間で、イスラム教を悪魔の宗教として排除する動きが見られます。この人々は、キリスト教とユダヤ教とイスラム教が共通の基盤で結ばれているという事実を全く無視しています。今回は、三つの宗教が信仰の父、母と呼ぶモーセとその妻サラに焦点を当てて、共通する聖書の基盤を探ってみたいと思います。◆一つ。アブラハムが父の家を出て神の示す地へと旅立ったように、私たちがまた神の思いに忠実である時、勇氣と力に満たされるのです。サラが自分を裏切ったアブラハムを赦したように、私たちがまた神の思いに従う時、赦しの心を自らのものとしてできるのです。◆二つ。アブラハムが自分の命を救うために最愛の妻を妹だと偽ったように、私たちがまた神に背を向ける時、利己心の固まりとなり、人間らしさを失ってしまうのです。サラが自分の欲からハガルとイサクを亡き者にしようとしたように、私たちが自分の欲望に目がくらむ時、弱い者を足蹴にする行為に与してしまうのです。◆そして三つ。神は常に私たちの良心に呼びかけ、私たちの生き方を少しでも神の思いに適うものになるようにと、私たちが説得し、忍耐強く待ち続け給うというのです。神は私たちがいかに罪に染まっても、いかに神に背を向けた生き方をしても、私たちが常に気にかけて、慈しんで下さるというのです。◆アブラハムが信仰の父であり、サラが信仰の母であるのは、彼らが素晴らしい人格者であったからではなく、彼らの人生の「こま」が慈しみと愛と正義の神を証しているからなのです。キリスト教もユダヤ教もイスラム教も、アブラハムとサラを信仰の父、母として持つという共通の基盤の上に立っており、互いにいがみ合うとは考えられないことなのです。神こそ罪深い私たちの人生を方向付ける光です。家を建てる時の土台です。暗闇を歩く時の消えない灯火です。

■ 9月26日「信仰の父アブラハム(2)」創世記22章1

一3節 イサクが10才程の健康な子供に育った頃のある日、神はアブラハムに恐ろしい命令をくだされます。最愛の息子イサクをモリアの山に連れてゆき、そこで彼を焼き尽くす供え物として捧げよというのです。このエピソードにどのような意味が込められているのでしょうか。◆アブラハムとその妻サラは、世継ぎに恵まれ無かったため、はしためのハガルにアブラハムの子供を生ませてイシュマエルを世継ぎとして育てます。しかし程なくサラ

がイサクを身ごもります。世継ぎは一人だけです。イシュマエルの存在が邪魔になり、アブラハムはハガルとイシュマエルを荒野に追いやり、殺そうと計るのです。この物語は、自分の欲望とエゴイズムの虜になる時、神に背中を向け、自らの欲望に神経を集中する時、人は弱者を足蹴にしてんとして恥じない存在と化すことを明らかにします。◆それでは、イサクを焼き尽くす供え物として捧げよという神の命令は、何を意味するのでしょうか。神と向き合った時、アブラハムは心底からハガルとイシュマエルの絶望と恐怖を自分のものとして感じ取り、神はアブラハムをして、彼の中に深く潜む残酷さ、醜悪さと直接向き合わされたのです。神を仰ぎ見た時、アブラハムは心底から悔い改め、そして神はアブラハムを赦されたのです。◆やがてアブラハムは年が満ちてこの地上の命を全うします。彼の二人の息子、イサクとイシュマエルは、彼をマクペラの地に葬りました。かつてアブラハムによって砂漠に置き捨てられたイシュマエルがここに登場し、腹違いの兄弟イサクと共に、丁寧にアブラハムを弔うのです。◆アブラハムは神によって、そして人によって赦されたのです。私たちの一生は、いくら財産を残したか、どれだけ出世したか、どのような名譽を勝ち得たかで決まるものではありません。私たちの一生を決定するのは、どれだけ赦されたか、そしてどれだけ赦したか、この一点にあるのです。キリスト教もユダヤ教もイスラム教も、この点では一致しており、アブラハムを信仰の父と呼ぶのです。イスラム教徒を悪魔の輩と呼ぶ立場が正しい筈がありません。

◇ステewardシップ月間の証し◇

10 月は、クリスチャンとして神様にどのように仕えるべきか、神様との関係を深めていくべきかを考えるステewardシップ月間です。その一環として、日曜礼拝において 4 人のメンバーの方に毎週一人ずつ証しをして頂きました。以下に、10 月 10 日の礼拝で話された今戸ちづ子姉の証しを掲載します。この他、17 日に丸橋ダウズ理加姉・渡辺つぎえ姉、24 日に栗原健兄が話をされました。◆**今戸姉の証し**(一部要約):「昨年の 9 月から神学校のクラスを取り始めました。土曜日を用いてクリスチャンとしてもっと準備しておきたいと考えていたとき、神学校の土曜のクラスがあることを知り、良い機会だと思って申し込みました。毎週 2 クラス、4 学期で 2 年間の Certificate in Christian Ministry というコースです。先月から 3 学期目に入りました。◆最初の授業では、さまざまな奉仕をしているリーダーたちの自己紹介を聞いて圧倒され、場違いなところに来てしまったのではと逃げ出した気持ちになってしまいました。それでも、先生の『あなたたちは一人ひとりにここに理由があります。自分で選んで来たと思っている人たちもいるでしょうが、あなたたちは主に選ばれてきたのです。』という言葉に励まされ、学びを始めました。週に 5 日フルタイムで仕事をして、毎週のリーディングや提出する課題をするのは、楽なことではありませんでした。また、歴史や地理の

ことで頭を悩まし、英語で学んでいることで自分がどれほど理解ができていのだろうかという不安もありましたが、今まで知らなかったことを学び、クラスメートと支え合うことや共に祈ること、励まし合い、助け合うことなど、今まで学校という環境では味わったことのない多くのことを体験しました。本当に感謝しています。◆先週鈴木先生が、タラントのたとえと 2 匹の魚と 5 つのパンの話は実はつながっていると話して下さいました。主から頂いたものを用いようと差し出した時、たとえそれが僅かでも心から捧げたものを、神様は喜んで受け取って下さって、それを豊かに祝福して余るほどにして与えて下さるというメッセージでした。私が捧げたものは、それほど大きな犠牲を伴うものではなかったかも知れません。デイスカッションについていくこと、プレゼンテーションなど、自分にとってとても大変に思うことには『自分は今これを行っている神様のご計画があるのだから』と自分を励ましたりしました。そんな『神様のために準備したい』という私の思いを主は受け取って下さり、本当に沢山のものを私に下さいました。◆私が捧げたものは、学びのためのお金や時間や労力だけでなく、自分が一歩踏み出す勇気でもありました。しかし、実はそれらはすべて神様が与えて下さったものでした。加えて、主にあることの平安、暖かく豊かな兄弟姉妹との交わり、神様との関係や信頼が増したことなど、捧げたものに比べれば、私が受けたものは十分でまた願った以上の恵みであったと思います。◆神様との個人的な関係を通して主が働いておられ、聖書のみ言葉が時を越えて真実であることを体験し、またこれからも真実であることを信じて感謝します。今後も神様の必要があったときに『ここにおります』と応答ができるような自分でありたいと祈っています」。

◇教会の建物修理◇

建物修復委員会報告 10 月 3 日に開かれた臨時教会総会において、日米合同教会が必要としている建物修復計画の内容が報告されました。修復がどの程度のものか、どれ程の規模のものかに関する出席者が十分に理解できるように、パワーポイントを利用した写真を皆で見ながら説明がなされました。質疑応答の後、修理第一段階のために教会の資産から 25 万ドルを拠出することが了承されました。複数の請負業者と建築家が協力してより精密な見積りを提出する準備をしてくれています。◆建物修復委員会は建築家の推薦した請負業者を承認し、10 月 25 日から建物後部のレンガ組み直しの作業に入りました。それが済めば、屋根の修復の作業に入ります。これらの作業は最も優先順位の高いものですが、厳しい冬が到来する前に完了しなければなりません。どうか建物修復委員会が思慮深い決定をするようにお祈り下さい。また作業員の方々の安全と健康が守られるように。

◇JCFN カンファレンスのお知らせ◇

隔年で開かれている JCFN (Japanese Christian Fellowship Network)主催の修養会イクイパーカンファレンスが、今年も 12 月末にカリフォルニアで開かれます。この修養会は、海外でキリ

ストに出会った日本人クリスチャンたちが、帰国する前に自らを equip (備える) し、文化的ギャップの大きい日本でも信仰を保って神の愛を伝えて行けるようにすることを目的とするものです。もちろん、帰国する方だけでなく、日本宣教に関心がある方も大歓迎です。カンファレンスにはゲストスピーカーとして「ハーベストタイム」でお馴染みでした中川健一先生、ニュージャージー日本語教会の錦織学先生、またタイで宣教師をされている大里英一先生が参加される予定です。世界伝道や弟子訓練に関するワークショップなども用意されており、日程は 12 月 27 日 - 1 月 1 日、費用は 11 月 8 日までに申し込まれた場合は学生 325 ドル、社会人 370 ドル、夫婦 300 ドル、それ以降ですと 345 ドル、395 ドル、325 ドルです。詳細・申込みは www.equipper.org 参照。

◇お知らせ◇

■**感謝祭** 毎年恒例の感謝祭礼拝・ディナーは、今年は 11 月 21 日(日)に行われます。コーディネーターは吉田ジェリ姉です。調理・清掃などのヘルパーを募集中です。サインアップシッピシートが社交室の掲示板に貼ってありますので、ご協力下さい。

■**秋のアルファコース** 「キリスト教は初めて」という方のための入門コース「アルファコース」が 9 月 22 日から再び始まり、現在 20 名ほどの方が参加されています。11 月 24 日まで合計 13 セッションが JAUC で持たれる予定です。各セッションは毎週水曜日の午後 7 時から 9 時 15 分まで開かれています。問い合わせはダウズ理加姉・ジェリ吉田姉まで。

■**VIP 集会** 10 月の VIP 集会は 11 日に開かれ、ニュージャージー日本語教会の錦織学先生が信仰生活における祈りの大切さについて話して下さいました。「ある人について知りたいのであれば、その人に関する情報を集めればいいかも知れません。しかし、その人を知りたいのであれば、直接話をすべきですね。そのように、神様を知りたいのであれば、一番良いことは神様に直接祈ることです。根をいかに深く張っているかは外からは分かりませんが、その見えない根の部分がその木の強さを決めるのです。そのように、信仰生活を支えるのが祈りです」。NY・NJ 地区の日本人信徒が集まって学びや証しの時を持つこの集会は、毎月第 2 月曜午後 7 時 15 分から JAUC で開かれています。

■**春山スカラシップ** ジャスティン春山スカラシップの今年度の奨学生が決まりました。浅見クリスティンとみえ姉(フラワー神学校)、アーサー・ウルフ・ロウザー兄(同)、畦原優子姉(ドルー神学校)、伊与田昭夫兄(アライアンス神学校)、三上しおみ姉(サウスウェスタン・バプティスト神学校)、村田恭子姉(アズベリー神学校)、中川陽子姉(フラワー神学校)、庄司ゆみ姉(ゴードン・コンウェル神学校)で、金額は総額 6 千ドルです。同スカラシップは 1981 年以來、これまでに 60 人の神学生に奨学金を提供して来ました。

■**新しい讚美歌集** このほど JAUC では新しい英語讚美歌集を購入し、10 月 10 日の礼拝においてその dedication のセレモニーを行いました。購入のため捧げて下さった皆様に感謝します。

■**スザーン・カーン姉のご結婚** カーン鈴子姉のお嬢様スザーン姉が 10 月 17 日、ヴァーモント州バーリントンで婚約者のピーターさんと挙式されました。おめでとうございます。

■**松原教会音楽グループによるコンサート** 故村上清子姉が牧会されていた松原教会から音楽グループの方々が NY を訪ねられ、26 日(日)に JAUC で音楽会を開催して下さいました。

■**ホームレスシェルターのオープンハウス** ロウアーマンハッタンで 130 年にわたりホームレスなど困難にある人々を支援して来たキリスト教団体 New York City Rescue Mission が、11 月 14 日(日)午後 2 時 - 4 時に施設のオープンハウスを行ないます。ホームレス支援の現場について深く知る良い機会です。同団体のウェブサイトは www.nycrescue.org です。

◇私の好きな聖句◇

■**利根川純兄** ヨハネによる福音書 21 章 22 節:「(イエスは彼に言われた、『たとい、わたしの来る時まで彼が生き残っていることを、わたしが望んだとしても、)あなたにはなんの係わりがあるか。あなたはわたしに従ってきなさい』」。

◆**小林かおる姉** テサロニケ人への第 1 の手紙 5 章 16-18 節:「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべての事について、感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって、神があなたがたに求めておられることである」。

◇祈りのリクエスト◇

次の方々を日々の祈りに覚えて下さい。ロベルト・アセバード(アセバード兄のお父様)、バーバラ・アレクサンダー牧師、浅井ひさよ姉、伊藤ゆう子、岩佐敏夫、奥田久子、小口愛(ウェストミンスター教会)、神崎ヨネ、桑田ハリー、ゴーマン美智子、佐々木みほ、野間美奈子、パウマン久美子姉(10 月 24 日に手術受けられました)、松本二三子、向井ジョージ(ベイサイド在住)、山崎あきら(堀内姉のお兄様)、湯沢キミ諸兄姉



スモール・グループ

スモールグループは教会員の霊的成長のための教会プログラムです(自由参加)。少人数での交わり(フェロシップ)を通して、クリスチャンとして実生活でどう生きるかなどを考え、互いに支えあい高めあうことを目的とします。時刻は変更されることがありますので、月報のお知らせ欄を確認下さい。

SG 1. 女性信徒の学び会(バイブル)	第 2, 4 土 1 時	園田姉宅
SG 2. 日本人女性の会	第 2 火 11 時	時田姉宅
SG 3. 男性信徒の学び会(バイブル)	第 2, 4 日 9 時半	教会(日下部兄)
SG 4. 日本語での学び会	第 2 日 2 時	教会(春日姉)
SG 5. 日本語「葡萄の木」の会	第 1 日 2 時	教会(小林姉)
SG 6. 日本語「証しと祈りの会」	毎月最終金夜 7 時	寒河江兄宅
SG 7. 英語での学びの会	毎月第 3 日曜	教会(吉田夫妻)